2014 年度 第 1 回 環境災害対応委員会 議事録

日時：2014 年 4 月 30 日 13 時～14 時
場所：パシフィコ横浜会議センター423 号室
出席者：松本 淳（委員長：司会）、石原正仁（日本気象学会）、石峯康治（日本火山学会）、宇根 寛（日本地理学会、日本地図学会：書記）、大塚康範（日本応用地質学会）、金谷有剛（日本大気化学会・代理）、川畑大作（日本地質学会）、黒木貴一（東北地理学会）、小荒井 衛（日本地質学会）、後藤和久（日本堆積学会）、後藤真太郎（地理情報システム学会）、近藤昭彦（日本リモートセンシング学会）、田所敬一（日本地震学会）、田力正好（日本第四紀学会）、中村洋一（日本火山学会）、林 武司（日本地下水学会、日本水文科学会）、真木雅之（水文・水資源学会）、松島 大（水文・水資源学会）、柳澤教雄（日本地熱学会）、山本正直（写真測量学会・オブザーバ）

1. **参加委員等自己紹介**

2. **前回議事録の承認**
原案通り承認された。

3. **2013 年度の活動報告**
委員長より、2014 年度連合大会で以下のセッションを主催・共催していることが報告された。
「人間環境と災害リスク」（共催）
「Extreme Weather in Cities」（共催）
「福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態」（共催）
「連合は環境･災害にどう向き合っていくのか？」（主催）
主催・共催セッションが 2 組パラレルになった。プログラム編成の際になるべくパラレルになることを避けるようにすることが今後の課題。

出席委員から、各学協会の取り組みについて、配布資料等にもとづき下記の報告がなされた。
・日本気象学会（石原）：2013.5 春季大会でシンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」、公開気象講演会「将来の再生可能エネルギーと気象」を開催。2013 年連合大会で「A-AS23 都市における極端気象」セッションを協賛。2014 年 JPGU「U-08 連合は環境災害にどう向き合っていくのか」ユニオンセッションを協賛、「福島第一原子力発電所に関わる環境汚染と大気科学の役割」を講演（東大、中島）。2013.11 秋季大会で「2013 年 7/8 月豪雨災害に関する研究会」、シンポジウム「二酸化炭素研究の新展開」開催。IPCC 第 5 次評価報告書の刊行にあわせた解説本を作成中。夏休みには刊行予定。
・日本火山学会（中村）：2013 連合大会で火山防災シンポジウム、日本火山ハザードマップ集第 2 版出版（防災科研と連携。わずかだが残部有）。「日本火山学会火山防災委員会の活動からみたわが国の火山防災」論文発表（防災科研資料）。IAVCEI での発表と展示。秋季大会公開講座で「火山防災シンポジウム―福島県の活火山と防災―」実施、火山防災委員会の常設化提案。火山防災関係省庁担当者との勉強会を実施。
・日本大気化学会（金谷）：本年より大気化学研究会から日本大気化学会に名称変更。2013.11 第 19 回大気化学討論会にて、福島原発事故由来の放射性物質に関するセッションなどを開催。環境災害の側面をもつ、越境大気汚染の解析に関する発表多数。
・日本地質学会（小荒井、川畑）：地質・地盤情報活用促進に関する法整備の緊急提言の活動中。連合も協議会の会員。
・日本第四紀学会（田力）：2013.6 深谷断層見学会、2013.6 特別講演会「自然環境の過去･現在から未来を見据える：環境と自然災害」、2013.8 公開シンポジウム「考古遺跡からみた津軽の人と自然」、2013.11 共同シンポジウム「関東地方の地形・地質・テフラ研究

の現状と今後の方向性」開催、2015 年 7 月の国際第四紀学会 INQUA 名古屋大会の開催準備。

・日本応用地質学会（大塚）：国際応用地質学会主催アジア地域応用地質学シンポジウムに参加、次回同シンポジウムを 2015.9 に京都大宇治キャンパスで開催を決定。2013 大会で「放射性廃棄物処分」の特別セッションを設定、特別講演「歴史と現代を対比し克災する」開催。2013.12 日本学術会議主催シンポジウム「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」に 29 学会が参画。2014.11 に同じ枠組みで「東日本大震災･阪神淡路大震災等の経験を国際的にどう活かすか」を準備中。

・日本地熱学会（柳澤）：2013.7 再生可能エネルギー展示会に出展、講演、2013.11 年会で国立公園における地熱開発の課題についての特別講演、タウンフォーラム「地熱エネルギー入門」を開催。

・日本水文科学会（林）：福島第一原子力発電所の汚染水問題に関する声明を発表。

・日本地下水学会（林）：2014.3 の水循環基本法の成立を受けて 5/23 にセミナーを開催。

・日本リモートセンシング学会（近藤）：環境リモセン、合成開口レーダ、航空機観測、UAV などの環境計測技術を中心に取組。

・日本地震学会（田所）：2014.3「東日本大震災合同調査報告　共通編１　地震･地震動」を刊行。日本学術会議シンポジウムに参画。

・東北地理学会（黒木）：三陸海岸の調査を実施。2014.5 に日本地理学会・日本地図学会と共催で春季大会を開催予定。

・日本堆積学会（後藤）：2013.9 に東北大で津波堆積物ワークショップを実施。

・日本地理学会（宇根）：災害対応委員会を常置して定常的に活動。毎年災害シンポジウムを実施。特に 2013.9 の福島大での秋季大会で「東日本大震災の発災・復旧・復興～地理学の取り組みと課題」として「福島の原子力災害に対する地理学的支援」、「東日本大震災の災害地理学的検証―想定外を繰り返さないために」、「仮設住宅から復興公営住宅へ―地理学と隣接分野からの提言」の 3 件のシンポジウムを開催。2014.3 の春季大会では公開シンポジウム「レジリエントな国土･地域社会の構築に向けた地理学的課題」を開催。災害時には地域拠点が機能する体制。

・日本地図学会（宇根）：2013.4 に日本国際地図学会から日本地図学会に名称変更。2014.8 に東北地理学会と共催で東北大学で定期大会を開催。

この他、以下の学会は欠席のため事前にメールでの報告があった旨委員長より紹介があった。

・日本雪氷学会（西村）：2013.9 雪氷研究大会で特別セッション「吹雪による災害軽減のためのリスクマネジメントの必要性」と「除雪ボランティアの現状とその持続可能性」を開催。2014.2 の関東甲信地方の大雪災害に関して日本雪工学会との合同調査･研究グループ意を組織し、成果を 6 月までにまとめる予定。

・地球電磁気･地球惑星圏学会（吉川、小田）：2013.6 宇宙科学技術連合講演会「宇宙活動の長期的持続性と宇宙環境保全』セッション開催。2013.9「アジア・オセアニア宇宙天気セッション」開催。2013.11 秋学会講演会「宇宙天気セッション」開催、宇宙環境の様々な変動による影響について議論。

4. 今年度及び今後の活動方針

・今回の連合大会で防災教育についての良いセッションがあった。委員会では防災教育については取り組んでいなかったので、今後取り組みの強化を検討する。

・緊急災害対応については引き続き検討する。

・松本委員長は 5 月末で退任。後任委員長は田中賢治理事（京都大）。副委員長は奥村晃史理事（広島大）、北 和之理事（茨城大）となる見込（正式決定は 6 月 2 日の理事会後に委員会で決定）。各委員も次回理事会で留任・新任者を承認し、新たな任期に入る。選出のない学協会にもこの機会に必要に応じ選出を依頼する。